全国視聴覚教育連盟

視聴覚教育時報

No.735　2022 年　12 月号

contents

▽令和４年度 第２回理事会報告・令和５年度の事業計画概要（案）について
▽令和４年度 全国大会報告
▽令和５年度の全国大会について
▽視聴覚センター・ライブラリー担当者情報交換会開催
▽講師派遣事業　令和４年度メディア研修特別講演会（新潟県）
▽えすけーぷ

▽令和４年度 第２回理事会報告・令和５年度の事業計画概要（案）について

本年度第２回理事会は、11 月９日付文書により、11 月 30 日を理事会指定日として各議案について文書により審議いただき、全理事から下記議案について承認を得ました。
「令和４年度事業経過報告書（案）」
「令和４年度収支中間決算報告書（案）」
「令和５年度事業計画概要（案）」

＜令和５年度事業計画概要（案）＞

〇取り組み方針

令和５年度の調査研究事業の柱は、昨年度同様に２本とし、専門委員の知見を活かした調査研究を進める。

また、これらの取り組みを活かすためにも、引き続き他の教育メディア関係組織や団体との連携を進め、教育メディア利用推進会議、著作権処理のための協議会、視聴覚教育・放送教育合同全国大会等を積極的に実施する。

〇事業計画

・会議

①理事会

第１回文書理事会　５月
第２回理事会　11 月 11 日（全国大会）

②常任理事会

第１回常任理事会　４月
第２回常任理事会　11 月

③専門委員会

全国をブロック別に分け、専門委員を委嘱し、主としてブロックの情報交流や拠点における研究・研修事業の推進。また、全国大会における全視連関係分科会での指導助言・運営・記録等の協力体制を継続する。

・実施事業

①令和５年度視聴覚教育総合全国大会・放送教育研究会全国大会 合同大会の開催

令和５年度視聴覚教育総合全国大会・放送教育研究会全国大会 合同全国大会は、「未来社会に向けて 生涯にわたる学びを支えるメディア活用」をテーマに、令和５年１１月１１日（土）にオンラインにより開催することとなった。開催に当たり、大会における生涯学習部門の充実を図り、「ワークショップ・セミナー」及び「実践発表」により全視連分科会の充実を図る。

②全国視聴覚教育連盟視聴覚教育功労者の表彰

③調査研究事業

▽「オンライン学習への対応策構築に向けた調査研究」（継続）

令和４年度はオンライン提供に向けて自作教材の制作動向と、自作教材のオンライン配信状況を調査した。その中で、自作教材の継続的制作が十分にできていないこと、自作教材のオンライン配信の取り組みが少ない状況が見えてきた。令和５年度は自作教材の拡充への取り組み方策と、オンライン配信への取組方策について提案を行う。

▽「オンラインによる視聴覚センター・ライブラリーのネットワーク構築に向けた調査研究」（継続）

令和４年度は視聴覚教育・放送教育合同全国大会に合わせてオンラインによる視聴覚センター・ライブラリー職員のオンライン交流を試行するとともに、オンラインによる研修会を企画した。令和５年度はこの実績を踏まえてより効果的な交流機会の継続的実施と研修会の開催に向けた課題整理と提案を行う。

④講師派遣事業の実施

▽令和４年度 視聴覚・放送教育合同全国大会報告

去る 11 月 12 日（土）、標記合同全国大会が、「未来社会に向けて 生涯にわたる学びを支えるメディア活用」をテーマに、時代に即した視聴覚教育・放送教育に関するワークショップ・セミナー、実践発表、全体会、研究交流、教材・機材展示などを行い、最新の視聴覚教育・放送教育、ＩＣＴ教材・機器に関する情報を提供することを目的に、579 名の参加申込を得て、オンラインにより開催されました。

- **期日**：令和４年１１月１２日（土）
- **対象**：全国の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の保育士・教員および教育関係者、社会教育関係者

主催者挨拶：視聴覚教育総合全国大会連絡協議会・大久保昇会長

文部科学大臣祝辞代読：文部科学省初等中等教育局修学支援・教材課 山田哲也課長

主催者：全国放送教育研究会連盟・銭谷眞美理事長

＜生涯学習部会＞

▽セミナー（10：00～12：00）生涯学習

自作教材の制作とデジタル配信に関して、デジタルアーカイブという視点から講義と質疑応答を行いました。近年、視聴覚センター・ライブラリーの保有する教材に関して廃棄や移管に関する問い合わせが増えているため、手続き方法を含めた解説も行いました。

①「視聴覚センター・ライブラリーとしてデジタルアーカイブにどう取り組むか」

講師：坂井知志氏（日本デジタルアーキビスト資格認定機構理事）（90 分）

セミナー講師：坂井知志氏

②視聴覚教材の廃棄と移管手続きの考え方と手続き方法（30 分）

平成 23 年度より、視聴覚ライブラリー所有の視聴覚教材を廃棄や移管する場合に権利者団体に通知することとなり、今年度で 12 年目を迎えました。16ミリフィルム・ビデオテープ・ディスクなどを、施設の統合や廃止に伴い他教育施設に移管する場合や廃棄する場合、その視聴覚教材の作品名などを「視聴覚教材の移管届け・廃棄届け」のリストを記入し、加盟団体を通じ全国視聴覚教育連盟に提出し、全視連は（公社）映像文化製作者連盟に通知し、著作物の移管が完了します。その手続きの流れや方法を解説しました。

▽実践発表（13:30～15:10）生涯学習

テーマ:「自作教材制作と教材のデジタル化の取組み」

司会・進行：丸山副委員長

司会：丸山副委員長

1）実践発表1（25 分）

「岡崎市視聴覚ライブラリーにおける自作視聴覚教材制作の取組み　教材を発信し続ける視聴覚ライブラリー」

発表者：近藤雄一氏（岡崎市視聴覚ライブラリー）

実践発表：近藤雄一氏

2）実践発表2（25 分）

「郷土学習教材の作成、映像のシリーズ化とデジタル配信　富山県映像センターにおける取組み」

発表者：山本俊之氏（富山県民生涯学習カレッジ）

実践発表：山本俊之氏

▽令和５年度の全国大会について

令和５年度の第 27 回視聴覚教育総合全国大会・第 74 回放送教育研究会全国大会 合同大会は、令和５年 11 月 11 日（土）にオンラインにより開催されることとなりました。

内容としてはワークショップ・セミナー、実践発表などを実施する予定となっております。

案内がこのほど出来上がりましたので、下記よりダウンロードしていただき、ご参照下さい。

https://www.javea.or.jp/soutai/index.html

今年度に引き続き、ぜひご参加いただきたく、よろしくお願いいたします。

なおダウンロードいただいた案内の PDF データは、関係先へ配布、または印刷の上、ご案内いただけますようお願いいたします。

▽視聴覚センター・ライブラリー担当者情報交換会開催

11 月 12 日（土）開催の全国大会の前日の 11 月 11 日（金）14:30～16:00 に、今年度の調査研究事業２「オンラインによる視聴覚センター・ライブラリーのネットワーク構築に向けた調査研究」の一環として、視聴覚センター・ライブラリーの職員を対象に、Zoom による情報交流会を実施しました。

〇参加施設

青森県視聴覚ライブラリー（青森）
岩手県南第一地域視聴覚教育協議会（岩手）
岩手県久慈市立図書館（久慈）
栃木県視聴覚教育連盟（栃木）
千葉県総合教育センター（千葉）
新潟県立生涯学習推進センター（新潟）
石川県立生涯学習センター（石川）
鹿児島県教育庁かごしま県民大学中央センター（鹿児島）

〇ゲスト
東映株式会社教育映像部部長　中鉢裕幸氏
〇事務局
全国視聴覚教育連盟事務局長、専門委員長、

副専門委員長

１．開催趣旨

・令和２年度３年度と視聴覚教育・放送教育合同全国大会がオンラインで行われたように、視聴覚センター・ライブラリーの情報交換や研修もオンラインでの開催が必要となっています。そのため、どのようにオンラインでの開催が可能となるかを検討した令和３年度の研究を継続し、実際にオンラインでの情報交換と研修を実施し、参加不参加に関する各視聴覚センター・ライブラリーの考え方や実施状況、参加した結果への反応などを調査分析することを目的に実施しました。。

２．自己紹介

参加施設の担当者の自己紹介と施設の活動状況の報告から情報交流会を開始しました。

（青森）県の社会教育センターの中にライブラリーがある。ここのところあまり動きはない。16 ミリフィルムのデジタル化後の活用法・利用法についていい情報があれば聞きたい。

（岩手）コロナの影響で貸し出しも少ない状況だが、感染に気を付けながら上映会を開催している。16 ミリフィルムと映写機の利用が少なく、より多く利用できる方法があればと思い、16 ミリのデジタル化について話を聞きたい。

（久慈）16 ミリフィルムを所蔵しているが、利用されていないので活用方法があればと思い参加した。

（栃木）デジタル化を含めどう保管していくかが喫緊の課題になっている。

（千葉）所蔵する 16 ミリフィルムの DVD 化はかなり進んでいる状況にある。今後 16 ミリフィルムの移管、廃棄を進めていかなければいけない状況なのでお聞きしたい。

（新潟）施設の認知度が低いという懸念があり、県民に対して様々な PR をしていきたいと考えている。16 ミリフィルムの酢酸ガス対策の効果がなかなか上がらず、どう保管すればいいのかという問題がある。また、以前デジタル化した作品があるが、経緯や段取りが分からず、今後のデジタルにあたってどのように進め、どんな機械を使えばよいのかも分からないため聞きたい。

（石川）DVD の購入に際して、製作社から、視聴覚ライブラリーは図書館ではないので、一般貸出用ＤＶＤは販売しないとの話が、販売会社を通じてあった。他県の状況を伺いたい。

（鹿児島）＊事前に用意したスライドで状況の報告があった。16 ミリの利用が年間 1,300 本近くあり、保育園幼稚園からの利用が多い。しかし、高価なフィルムが劣化してきており、16 ミリフィルムをデジタル化して残すための技術面と権利面での検討を行いたい。権利面では難しそうだが、図書館とは違う立場で保存のための複製ができないかどうかを知りたい。技術面でも外注する予算がないため、カメラを使って複製するなど方法を探っている。

３．ライブラリー価格に関する意見交換

・石川県での「ある製作社から、視聴覚ライブラリーは図書館ではないので、一般貸出用ＤＶＤは販売しないとの話」があったことに関して状況報告があったことに対して意見交換を行った。

（中鉢）同じソフトでもどの部門が扱うかで著作権の内の複製権、上映権、頒布権、貸与権などの権利のどれとどれを許諾しているのかといった部分に違いがある。例えば一般視聴者向けの単に見ることしかできないものもあれば、業務用ビデオでも図書館用は貸し出しはいいが上映はダメとか、バスや航空機用はバス内や機内上映のみといったように許諾範囲が異なっている。ライブラリーに販売している作品は貸与権と上映権を許可しているが、例に出た販売できないという作品は、貸し出しはいいけれど上映はついていないという図書館向けに販売しているものではないか。複製権に関しては、わが社では付けて販売していないので DVD 化するというのはやってはいけない行為となる。また公衆送信権もつけていない。

（鹿児島）年間 20 本ほど DVD を購入しているが、県内に 2 社ある取り扱い会社から提示されたライブラリー価格が設定されている作品の中から購入している。
（久慈）映画会などもあるので、必ずライブラリー価格のものを購入している。
（新潟）現在、来年度の購入の検討をしているが、館内上映権と比べて館外上映権が付いていると値段が高くなり、予算と必要性の関係で悩んでいる。
（石川）これまで売ってくれていたものが、去年あたりから発行元が売れないといっているということで買えなくなった。皆さんどう買われていたのかを知りたい。
（中鉢）その会社として許諾の方針や販売の方針が変わったのではないか。わが社にも案内が来ていたので、調べて情報提供する。
＊終了後に情報提供いただき、業務の縮小、廃止が行われているとの通知だった。
（岩手）県内の業者 2 社からカタログを取り寄せて選定しており、今話が出ている会社の作品は購入していない。

4．16 ミリフィルムのデジタル化に関しての意見交換

（千葉）平成 23 年から 10 年間かけて 16 ミリフィルムを DVD に変換している。千葉テレビが制作した番組の 16 ミリフィルムを 2013 年に千葉テレビと覚書を締結して DVD 化している。DVD の貸出に際しては、複製はしないという誓約書を書いていただいている。
（中鉢）持っている 16 ミリフィルムをデジタル化したいというお話は年に 1～2 回はある。複製代をいただいて納めるということはある。ホールで上映するために古い映画をデジタル化するという場合だと 50～60 万円くらいという例がある。町場の簡単な DVD かの業者さんなら５万くらいでできるという例もある。自分たちでデジタル化できるので権利料だけ払うという例もある。定価を決めているわけではないので、相談していただければ調整できる。16 ミリフィルムをデジタル化することで活用できればいいと思うが、会社として行政として著作権を守ることが求

ゲスト　東映：中鉢裕幸氏

められる。
（司会）DVD が併売されている作品であれば DVD を購入活用となるが、それ以前の作品の場合どうするかということが課題になる。
（鹿児島）一部記録映像で県で作った 16 ミリフィルムがあり、フィルムが劣化しているのでデジタル化しないと上映できないものもある。権利は持っているものの、デジタル化するにしても 10 万円とか 50 万円とか出して行うのも難しい。フィルムで上映したものをデジタルビデオカメラで撮影して音声も加えてできないかという議論もあったりするが、こうしたらうまくいったというような例があれば聞きたい。図書館とは違うということで保存のための複製はできないというのが共通理解のようなので、権利を持っている記録映像を中心として安価な方法で記録として残したい。
（事務局）ネットを検索して出てくる変換サービスをする業者であれば、それほど高くないのではないか。ライブラリーによってはテレシネ変換装置を持っているところもある。
（石川）16 ミリフィルムを DVD 化して貸し出しているものはいくつかある。また、その一部はホームページに載せて公開している。ただ、それをやったのが 10 年以上前のことらしいので、権利上の問題も技術的な問題もどのようにやったのかわからない。
（栃木）16 ミリフィルムをデジタル化するのは基本的に有料と考えるべきなのかどうか知りたい。費用がかかるならば、予算を確保する必要がある・古いフィルムは価値がないと考えて破棄している例があれば知りたい。
（司会）フィルムのアーカイブの問題は非常に大切だと思うが、お金の面で難しい。古い

から価値がないのではなく、古いから価値があるとか、残すべきものがあるということが大切。それをどこでやるのか、自治体がやるのか、何らかの団体がやるのかということが課題。実際、毎年多くの 16 ミリフィルムが廃棄されている現状があり、廃棄されたらそこで終わりということの危機感を共有することが必要なのではないか。いずれにしても、機材費も教材費もない状況の中でアーカイブのための費用を出せるのかは難しい問題。

（事務局）廃棄届を受け付け始めて 11 年経つが、毎年 2,000 本から 4,000 本の 16 ミリ作品が廃棄されている。ビデオに関しては毎年 1,500～1,600 本だが昨年度は 6,240 本が廃棄されている。毎年ライブラリー一覧という冊子が出るが、全国のライブラリーの 16 ミリフィルムの保有数が 18 万 810 本、録画教材が 45 万 8 千本というのが総数になる。

（新潟）古いものはそのまま手つかずになっているのが現状。保管のための努力はしているが、今のところデジタル化については手つかずの状態。

（久慈）現在 78 本のフィルムがあるが、活用できずにいる。借りたいという利用者の方もいないし、こちらから働きかけるのも難しい。

（岩手）16 ミリフィルムはかなりの数を所蔵しているが、現状を維持するために保管や機器のメンテナンスに力を入れている。そんなには多くないが利用はあるので、部品等の供給も途絶えている中、継続に危機感を持って取り組んでいる。

（青森）16 ミリフィルムで青森県に権利があるものに関してはデジタル化が終わっている。しかし、16 ミリフィルムもデジタル化された DVD も需要がないというところが問題視されている。需要の掘り起こしというのが教育機関としてするべきなのではないかということが話題になっている。デジタル化して終わりではなく、保管するだけではなく、その媒体をどう活用していくかが全国でどれくらい進んでいるのかを知りたい。

（千葉）昨日、個人的に 16 ミリフィルムを借りて上映したいが、資格が必要だと聞いたのでどこで講習会をやっているのですかという問い合わせがあった。千葉県では 3 つくらいのライブラリーで年 1 回講習会を開いているが、使いたいときに資格が必要だということで、ほかの県ではどのようにされているか知りたい。

（石川）決まった時期にやるのではなく、希望があればやるという体制をとっている。

（栃木）2 年に 1 回、指導者養成として総合教育センターで行っている。他に市のライブラリーでも実施している。

5．まとめ

最後に副専門委員長によるまとめを行いました。

- 今回初めてオンライン情報交換会を開催したが、知識の交流という面で使いどころがある。
- 短い時間だったが、本音に近い話も出た。16 ミリフィルムというものは大きな価値を持っているもので、文化としても大事にしていきたいと感じた。
- 保管や活用に関して、技術的なことも含めて課題は多い。
- 人とチームを組むことで解決できることがあるのではないか。退職された専門的知識を持った方と組む、大学や専門学校と連携するということも考えられる。
- いろいろな人とコラボをするツールとしてもオンライン情報交換会は今後も行っていきたい。

▽講師派遣事業
令和４年度メディア研修特別講演会（新潟県）

令和４年度の全視連の講師派遣事業を活用して、市民映画館シネ・ウインド支配人の井上経久氏の講演が標記研修会において実施されました。

１．主催　新潟県立生涯学習推進センター

２．趣旨

情報化の進展や、生涯学習の推進を目指し、ＩＣＴを活用して県民の生涯学習活動を支援する担当者・指導者を育成する。県民の学習機会を提供する。

３．日時　11 月 16 日（水）14:00～16：00

４．会場　新潟県立生涯学習推進センター１階ホール

５．参加者

５３名

６．講師　井上経久氏（新潟・市民映画館シネ・ウインド支配人）

７．講演テーマ

「映画を通して世界の形を学ぶ～意外なものが見えてくる～」

８．講演内容の要旨

①講師と映画とのかかわり

・映画「阿賀に生きる」の上映会にスタッフとしてかかわる

・シネ・ウインドに就職し、ボランティアに支えられながら市民映画館を運営

・映画を通して地域づくりをめざし、子どもたちが映画作りをする機会を提供

②映画の歴史

・写真から動画への変遷

・1895 年：無声映画「工場の出口」「列車の到着」「国民の創生」

・1927 年：音付き「ジャズシンガー」

→失われた職：無声映画楽団や弁士

・1935 年：カラー「虚栄の市」

→苦労した色の再現

・1951 年：国産カラー「カルメン故郷に帰る」

・映画館からテレビ、スマホやタブレットへ

→映画館体験から鑑賞体験への変容

③映画を構成する要素の例

・美術

→美術設定、装飾、小道具、持ち物、衣装など

・撮影

→画面構成、ピント、拡大と縮小、移動、角度、サイズなど

・俳優

→配役、用紙、性別、年齢など

・音声

→セリフ、音楽、効果音、サイレントなど

・編集

→場面構成、テクニカル効果、タイミングなど

④映画を通して見えるもの

・映画は、知らない者同士が時間を共有し、一緒に笑い楽しい時間が過ごせるコンテツ

・映画は、映像と音声を利用して、観客の心に深く記憶させる表現

・映画は、現実の世界を記録するもの（今と

なっては失われた過去：当時の服装や建造物）
・映画は、現存しないものを作れる（コンピュータグラフィックスなどの技術を活用）
・映画の面白さは、見る人それぞれである。世界にはたくさんの映画があふれている。

９.成果（参加者の記述より）

・井上さんの話を聞いていたら、もっと映画を観てみたくなった。
・映画のスクリーン中を、細かく感じて観ていなかったと思いました。これから映画を見るときには、服装や時代背景などよく考えて観たいと思いました。
・異なる視点からの講演は楽しい。
・映像を交えてお話ししてくださりわかりやすかった。
・目からうろこ。いろいろな角度から映画を観たいと思った。
・映像フィルムの進化を知ることができた。
・誰のために何を伝えたいのか・・・を考えながら観ていこうと思う。
・ストーリーに着目し全体を見ていましたが、細かく自分なりの興味があるところ（衣装、小道具など）にスポットを当てて映画を観る楽しみが増えました
・今まで、映画は日米英仏などの映画に限ってみていたが、違った文化圏の映画も観てみたいと思うようになった。
・映画の歴史だけでなく、現状の多様な映画作りや見方について気づかされた。
・各時代の映像を見比べると、それぞれの映像の良いところがわかりました。古いものも新しいものも、やっぱり映画は面白く楽しいと再認識しました。
・映像の残し方、とらえ方の方向性を考えるヒントになった。
・映画の始まりや初期作品が解説付きで観られてよかった。
・初の無声映画を観られたのがよかった。現在ショートムービーが個人で撮影することも簡単になっているが、とる側の視点が紹介されていたことが勉強になった。
・他の映画館では上映されない作品を鑑賞するために、時折シネ・ウインドを利用していますが、館長様にお会いでき経歴や映画のお話を聞けて参考になりました。映画の魅力や持っている力（共感や啓発、内省など）を、今後も折に触れ味わいたいと思います。
・映画の歴史を初めて知り得たのがよかった。無声からトーキーまでの黎明期に興味があった。カラー映画、リマスター等の映画の変遷を知る良い機会となった。

▽えすけーぷ

コンピュータクラブハウスは、1993 年にアメリカのボストンでスタートしました。MIT メディアラボとコンピュータ博物館が共同で開設したもので、「十分なサービスを受けていないコミュニティの若者が大人のメンターと協力して自分のアイデアを探求し、新しいスキルを開発し、テクノロジーを使用して自分自身に自信を築く、創造的で安全な学校外学習環境を提供する」ことを理念に掲げています。

学校だけではコンピュータをはじめとしたメディアの活用能力を身につけることが難しい若者に学校外教育（社会教育）の環境を整えるこの活動は、多くの人々の関心を集め、場を広げてきました。現在では 19 か国で 100 を超えるクラブハウスが活動しており、The Clubhouse Network として国際的なコミュニティを形成しています。

日本においても、「NPO 法人みんなのコード」が石川県加賀市と共同で「コンピュータクラブハウス」を 2019 年 5 月からスタートさせています。NPO 法人みんなのコードでは、学校教育の支援をメインにプログラミング教材の開発や教員向けの研修、政策提言や調査研究などを行ってきたといいますが、すべての子どもを対象に支援していくためには、新たな場づくりが必要だと考えて、同法人の社会教育部門が取り組んでいます。すでに石川県金沢市、高知県須崎市でも取り組みを開始しているそうです。

同法人では、最終的には全国で 2000 カ所はつくり、デジタルを活用して表現する権利をすべての子どもたちに保障するためにも、将来的には公立図書館のような生活のインフラとして整えていきたいと考えています。実際、GIGA スクール構想による様々な取り組みにより、メディアの活用能力を身につけることが期待されていますが、格差の発生が懸念されるところでもあります。

そのような格差の解消に向けたコンピュータクラブハウスの取り組みは大変重要なものだと思いますが、地域における教育施設である視聴覚センター・ライブラリーが本来取り組むべき内容であるとも言えるのではないでしょうか。若い世代に限らず、多世代を対象に視聴覚センター・ライブラリーがメディアの活用能力を高める取り組みを進める姿を期待したいと思います。（T．M）

全国視聴覚教育連盟
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11　虎ノ門 PF ビル
TEL：03-3431-2186／Fax：03-3431-2192
H P：http://www.zenshi.jp/
Mail：info@zenshi.jp

東映 教育ソフト Line-up!

社会・道徳・特別活動

自分ごとSDGs

SDGsに取り組んでいる人たちのインタビューを見て、身の回りにある身近なものからSDGsについての考えを深めていきます。SDGsの基礎知識を学ぶだけではなく、SDGsを自分ごととして捉え、行動していくきっかけとなる教材です。

「指導案」「ワークシート」あり

(22分) 72,600円(税込)
学校特別価格 36,300円(税込)

道徳・特別活動

性の多様性とLGBTQ+
～誰もが自分らしく生きるために～

「性のあり方」についての基礎知識をわかりやすく解説しながら、典型的でないとされる性のあり方の人たちへのインタビューを通して、性には様々な形があることや、性的マイノリティを取り巻く実状についても伝えます。

字幕版付き　解説書あり

監修：一般社団法人fair

(28分) 72,600円(税込)
学校特別価格 36,300円(税込)

家庭・保育

「映像で学ぶ　幼児の発達と生活シリーズ」全3巻

第1巻　幼児の心身の発達(24分)
乳幼児の発達がどのような過程で進んでいくのか、体の発達と心の発達、2つの視点で解説します。

第2巻　幼児の生活の特徴と家族の役割(23分)
乳幼児期の子供の生活の特徴と家族の役割について解説します。

第3巻　幼児と遊び(20分)
乳幼児期の子供の姿を見ながら、「遊び」の特徴や意味について解説します。

各巻　72,600円(税込)　3巻セット　198,000円(税込)
学校特別価格　36,300円(税込)　学校特別価格　99,000円(税込)

道徳・特別活動・防犯

「スマホは情報モラルが大切」全2巻

第1巻　ネットいじめをしない!SNSでの出会いに気をつけよう!(25分)

第2巻　もう一度よく考えよう!写真や動画の投稿(18分)

1巻で「ネットいじめ」「SNSでの出会い」、2巻で「個人情報流出」「炎上」をテーマとして取り上げ、それぞれドラマ編と解説編で構成しています。スマホを使ってSNSを利用するには、情報モラルを身につけ、よく考えた上でメッセージや写真や動画を投稿することが何よりも大切であることを伝えます。

各巻　72,600円(税込)　2巻セット　132,000円(税込)
学校特別価格　36,300円(税込)　学校特別価格　66,000円(税込)

お問い合わせ・チラシ請求は
☎ 03(3535)3631　FAX03(3535)3632
予告編配信中　https://www.toei.co.jp/edu/　教育映像　検索
東映株式会社　教育映像部
〒104-8108 東京都中央区銀座3−2−17

●学校向け特別価格もございますので、お気軽にお問い合わせください。

http://www.toei.co.jp/edu/